＜事例１＞

精密プラスチック金型製造における放電加工の活用と若手育成

㈱サン精密化工研究所　長野　篤史*

当社は昭和38（1963）年に東京都板橋区で設立し、昭和45（1970）年に現在の所在地となる埼玉県久喜市に移転し、今年で61年目を迎えた精密プラスチック射出成形品の製造・販売およびそれらの成形用金型の設計・製作を行うメーカーである（図１）。また、海外法人として中国（上海）とタイ（チョンブリ）の2拠点に100％出資の子会社を展開している。

取扱い品目と会社の強み

取り扱う主要品目はそれぞれの時代の主流に合わせて、創業当時はクォーツ時計の精密小型歯車部品に始まり、文房具、携帯用カセットプレイヤー、携帯電話（俗に言うガラケー）、事務機やプリンタ、カメラの鏡筒部品、家庭用ゲーム機、自動車部品などさまざまな精密機構部品の製造に携わっており、いずれも金型は100ｔ以下の小型サイズである。また、7ｔ、15ｔ、30ｔでは自社オリジナルのカセット金型（図２）をラインナップし、起型する総数のうち約1/3はカセット金型である。

2022年度の売上げ（成形品および金型）比率では、カメラの鏡筒部品関連が約32％、家庭用ゲーム機関連が約28％、自動車部品関連が約25％で、当社の三本柱となっている。

当社の最大の強みは「技術提案力」である。一般的には顧客とのやりとりは営業担当が窓口となり、それを技術部門に伝達・展開することが多いが、当社では技術担当が直接顧客の設計担当者の窓口となっているため、スピーディにかつダイレクトに提案できる環境を構築している。そのため、QCD（価格、コスト、納期）を満足した金型の量産立上げに寄与している。

当社の金型の製造設備（自動機）としては高速マシニングセンタ（MC）3台、MC2台、NC旋盤1台、ワイヤ放電加工機2台、形彫り放電加工機2台を所有する。当社が取り扱う成形材料はガラス繊維やカーボン繊維などの強化材が添加された樹脂が大多数を占

*Atsushi Nagano：市場営業部 取締役部長
〒346-0034　埼玉県久喜市所久喜707-4
TEL(0480)21-5616

図１
会社外観